

自然・食文化・伝統文化・農山村交流などの体験等を通した、都市との体験型交流

南会津-6

布沢周辺地区

只見町

南会津建設事務所
計画期間:H17~H18/H23~H28

地域づくりの方針

森林の分校「ふざわ」を拠点に、周辺の自然・歴史文化等資源の保全・活用・再生・連携を図ります。

主な事業内容

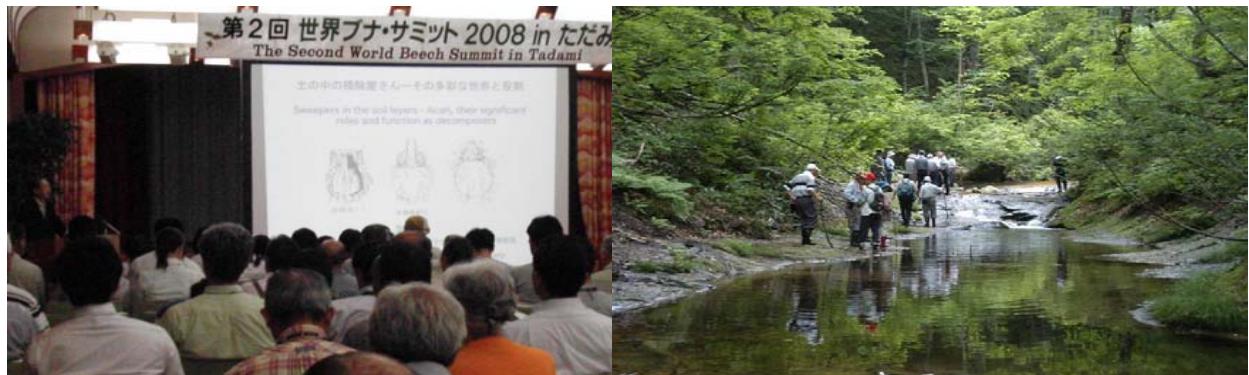
恵みの森へのアクセス向上を図るため、

交通安全施設、道路拡幅

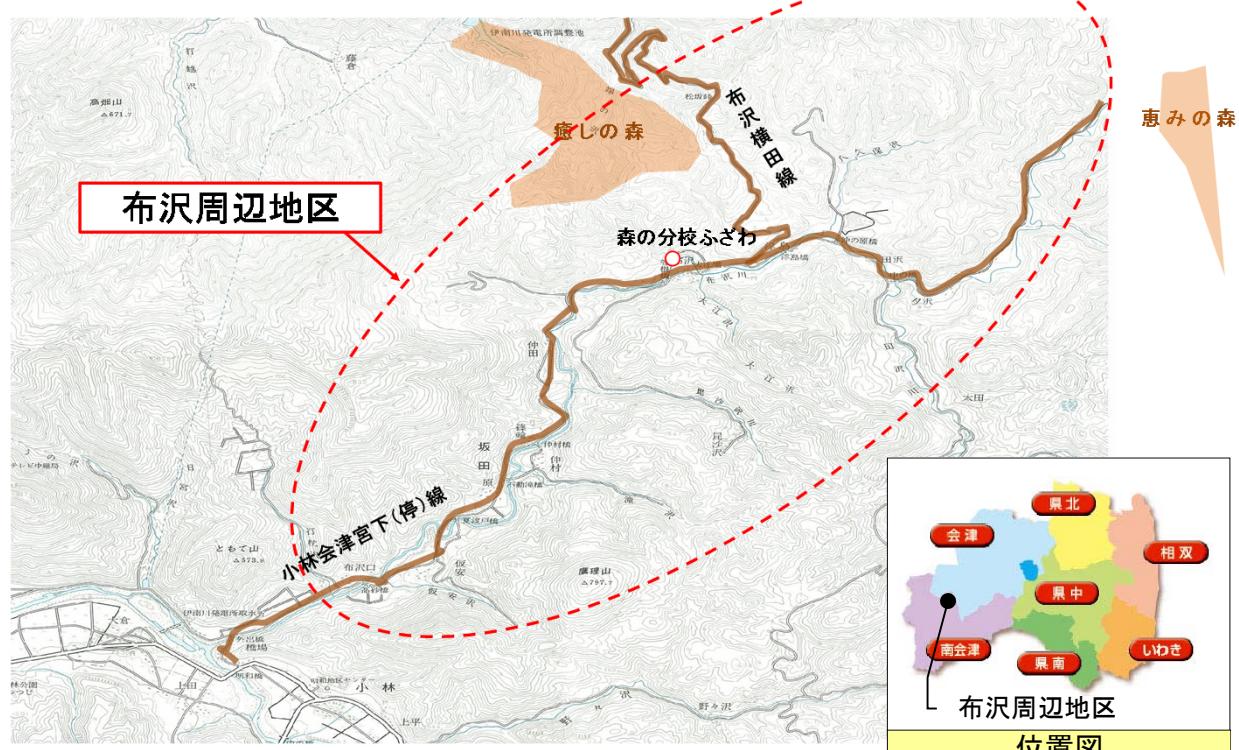
などを行いました。

癒しの森を訪れる観光客の増加を目指し、

バスの回転場 を整備しました。



事業概要図



地域の現状

南会津郡只見町は、只見川・伊南川などの清らかな流れと豊かな森林資源に恵まれ、四季の移り変わりが美しい緑と水の郷であり、都市との交流を進めるなど、新しい只見町の創造を図ろうと様々な取り組みを進めています。

一方、過疎・高齢化が顕著な地域であり、地域資源を活用しながら、継続的に地域づくりを進めることが課題となっています。今後、さらなる都市との交流を多面的に進めていくうえで、大小の地域資源を保全・活用しながら、地域の活動を支える取り組みが求められています。

地域づくりのあゆみ

- 平成16年
 - ・区役員、NPO法人「只見ぶなの木倶楽部」、街、県などによるワークショップを開催。
 - ・地区代表者との懇談会の開催
- 平成17年
 - ・只見恵みの森前バス回転所、アクセス道路にて舗装工、駒止ブロック工を実施。
 - ・WSにて小林会津宮下停車場線の現地調査を実施談会の開催。
- 平成18年
 - ・小林会津宮下停車場線小林地内にて小規模改良工、夕沢地内にて安全施設工、排水工を実施。また、地元集落機関誌「やまびこ」に当事業の記事が掲載される。
- 平成25年
 - ・癒しの森前バス回転場整備工事を実施。
 - ・布沢横田線1.5車線の整備計画策定のため懇談会を2回実施。

元気づくりの立役者たち

恵みの森



恵みの森



地域の課題・今後の展望

恵みの森や癒しの森入山者及び分校利用者も多く訪れており、本事業が地域資源を活かした地域振興に大きく寄与していますが、ツアーなど大型バスで訪れる際、大型車両のすれ違いが困難な箇所がまだあることから、さらなる整備促進が求められております。

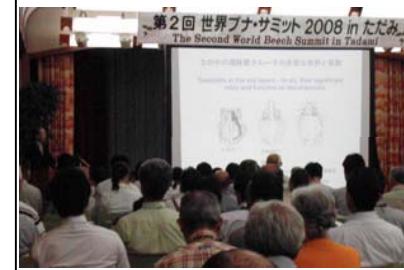
事業の効果

■第2回世界ブナサミットの開催

第1回世界ブナサミット(H17)に続き、本年6月に第2回世界ブナサミット(H2O)が開催されました。世界のブナの現状と保全をめぐり、国内外から著名な研究者が訪れ、講演会とパネルディスカッション、及びブナ林の散策会が開催され、多くの参加者が集まりました。

恵みの森や癒しの森入山者及び分校利用者も多いことから、本事業が地域資源を活かした地域振興に大きく寄与しています。

第2回世界ブナサミット



■地元住民の積極的なPR活動

布沢周辺地区へ観光客を誘致するため、地元住民と只見町観光まちづくり協会とが協力し、タクシーで行くトレッキングツアーを企画しております。

恵みの森の案内看板



■布沢周辺地区への道標

地元により「恵みの森」入り口に設置された案内板。利用客の道しるべとして活用されています。

■その他

地元機関紙で元気ふくしま事業での整備について取り上げられました。大変喜ばれています。

■他地域との交流の場

週末には多数の利用客が訪れる「森の分校ふざわ」。北関東などの都市部に在住する人々と、地元住民とのふれあいの場となっています。

森の分校ふざわ



「元気ふくしま・地域づくり・交流促進事業」で ぶなの原生林「恵みの森」満員御礼

昨年、福島県南会津建設事務所と山口市事務所の配慮により、福島県の『元気ふくしま・地域づくり・交流促進事業』という制度事業で、タケノコの原生林に囲まれた渓流の森『恵みの森』の入り口までの間に待避場や跨水橋等を整備し緑蔭装置していただきました。全線『たまほ』連続・急カーブ地点も多く、大型観光バスの進入ができます。年間の入山者は150人程度でしたが、今年は豪雪で入山開始が遅れたにもかかわらず、ゴールデンウイーク前後の1ヶ月で500人を超しています。入山者の代表の方に聞きました。「昨年では道路が緑蔭になつていなかったことで、危険があれで利用できなかつた」企画した旅行会社の方は、「大型バスのUターンする場所がないこと」、車交換のできる場所がないことなどで計画を断念せざるを得なかつた」と話していました。

そんなことで「恵みの森」は現在『満員御礼』といったところです。これに伴って、宿泊施設や森林の分校・ふざわの利用者も増加の傾向にあります。豪雪山間地の活性化は、なんと言つて『道路の整備』。そこに住む私たちも地域づくりのしっかりと力を定め、みんなで知識を出し合い、力を合わせて具体的に行動する以上に道はないどうことが、ここにきてはつきりしたように感じられます。これからは、私たち自身の手によって策定した、都市との交流による布沢川流域活性化計画『若者が住むことができる永遠の旅館』つくりを着実に実行に移して行きましょう。ご支援いただきました農林水産省・山形県・山形市に心から感謝申し上げます。

福島県南会津建設事務所：「バיכוןから見て『自民だよ』と書いていたが、今は他の政党の看板が書いてある。『たまほ』連続の急カーブで危険なところだという。又なん人は、なんと言つても我々が実行『たまほ』などと『たまほ』だと説らしめてます。しかし、美しい森と空気が森が気持ちいいんだから、運転の安全を第一に運転をせかなくてよくて『たまほ』になつたらいいんだよ」とおっしゃっていました。また、山形県の『たまほ』は、森林整備のために造られた『たまほ』の名前で、本来の『たまほ』の意味だと違う。若者が豪雪で仕事で『たまほ』の名前とは何かも考えてみたいのです。今朝も又山形の季節となつたのかのように天気をよくして、山形、山形、山形で豪雪をうながす。豪雪の影響で渓流の水が増えて、外で遊んでおられる、自分たちが楽しむという気分をもつていいものである。区民の皆さんの中には、ご賛否をぜひお寄せください。6月1日日記。GO



(道路の整備で今はお客様が急増している)

(森内の散策が人気が高い)

集落機関紙「やまびこ」
明和地区センター

整備内容及び利用状況

バス回転場整備



施工前



施工後

舗装及び駒止ブロック整備



施工前



施工後

利用状況

・ 恵みの森及び癒しの森の年間入山者は、東日本大震災震災の影響により入山者数が一度落ち込みはしたもの、現在は震災前の水準に戻っております。

■ 恵みの森

H17	1,500人
H18	2,500人
H19	2,800人
H20	2,500人
H21	3,000人
H22	3,800人
H23	109人
H24	254人
H25	3,800人

■ 癒しの森

H19	1,300人
H20	2,500人
H21	2,800人
H22	3,100人
H23	550人
H24	1,500人
H25	3,200人

関係機関

- 福島県 南会津建設事務所 企画調査課
- 只見町環境整備課
- 布沢行政区

TEL : 0241-62-5322

TEL : 0241-62-8046